受験番号		名　前	

令和７年度　大阪市公立学校・幼稚園教員採用選考テスト

幼稚園・小学校共通　　教科専門　問題集　（択一式）

受験中の心得

1　試験時間中は、すべて係員の指示に従ってください。お互いに話をしたり、席を立ったり、そのほか、人の迷惑になるようなことをしてはいけません。

2　試験開始後、まず名前を記入し、受験番号を次の〔記入例〕に従って黒くぬりつぶしてください。

〔記入例〕

解 答 用 紙　　名前　教育　花子

受験番号

A	B	C	D	E	F
9	8	7	6	5	0

A	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	●	
B	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	●	⑨	⓪
C	①	②	③	④	⑤	⑥	●	⑧	⑨	⓪
D	①	②	③	④	⑤	●	⑦	⑧	⑨	⓪
E	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⓪
F	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	●

3　答えは解答用紙に記入してください。

4　問題はいずれも五つの答えがでていますが、そのうち最も適切と思われる答えを一つ選んで、解答用紙の問題番号の右にある五つの数字のうち一つを次の〔解答例〕のように黒くぬりつぶしてください。

〔解答例〕　1　日本の首都はどこか。1～5から一つ選べ。

1　京都　　2　奈良　　3　東京　　4　名古屋　　5　大阪

この場合、正答は「3　東京」なので、解答用紙の問題番号 1 の右横に並んでいる③を黒くぬりつぶしてください。

1	①	②	●	④	⑤

5　間違ってぬりつぶしたときは、消しゴムでよく消してください。

6　問題は 20 問となっています。

7　時間は 70 分です。

8　途中退室はできません。

9　解答用紙は持ち帰ってはいけません。

10　計算を必要とする場合は問題集の余白を利用してください。

指示があるまで中をあけてはいけません。

1 次のア～オの各文は、学校教育法施行規則（昭和22年　文部省令第11号）の条文であるが、誤りの含まれているものがある。正しいもののみをすべてあげているものはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

第一章　総則

ア　第二十五条　校長（学長を除く。）は、当該学校に在学する児童等について出席簿を作成しなければならない。

第三章　幼稚園

イ　第三十七条　幼稚園の毎学年の教育週数は、特別の事情のある場合を除き、四十週を下つてはならない。

ウ　第三十八条　幼稚園の教育課程その他の保育内容については、この章に定めるもののほか、教育課程その他の保育内容の基準として文部科学大臣が別に公示する幼稚園教育要領によるものとする。

第三十九条　第四十八条、第四十九条、第五十四条、第五十九条から第六十八条までの規定は、幼稚園に準用する。

エ　第四十九条　小学校には、設置者の定めるところにより、学校評議員を置くことができる。

オ　第六十条　授業終始の時刻は、文部科学省が定める。

1　ア　エ
2　ア　イ　ウ
3　ア　ウ　エ
4　イ　ウ　オ
5　イ　エ　オ

2 次の文章は、幼稚園教育要領（平成29年３月　文部科学省）「第１章第６　幼稚園運営上の留意事項」に関する記述であるが、下線部に誤りの含まれているものがある。下線部（ア）～（オ）の記述について、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

1　各幼稚園においては、(ア)教育委員会の方針の下に、園務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、教育課程や指導の改善を図るものとする。また、各幼稚園が行う学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や(イ)幼稚園運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意するものとする。

2　幼児の生活は、(ウ)幼稚園を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園における生活が(エ)家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにするものとする。その際、地域の自然、高齢者や異年齢の子供などを含む人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫するものとする。また、家庭との連携に当たっては、保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児との活動の機会を設けたりなどすることを通じて、保護者の幼児期の教育に関する理解が深まるよう配慮するものとする。

3　地域や幼稚園の実態等により、幼稚園間に加え、(オ)保育所、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るものとする。特に、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため、幼稚園の幼児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けるようにするものとする。また、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むよう努めるものとする。

1	イ	エ	
2	ウ	オ	
3	ア	イ	オ
4	ア	ウ	エ
5	イ	エ	オ

3 次のア～オの各文のうち、〔　〕内に示される関係法規等の記述として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

〔教育基本法〕

第一章　教育の目的及び理念

ア　第一条　教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

イ　第三条　国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

〔学校教育法〕

第三章　幼稚園

ウ　第二十六条　幼稚園に入園することのできる者は、満四歳から、小学校就学の始期に達するまでの幼児とする。

〔幼稚園設置基準〕

第二章　編制

エ　第三条　一学級の幼児数は、三十人以下を原則とする。

〔学校保健安全法〕

第三章　学校安全

オ　第二十七条　学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、当該学校の施設及び設備の安全点検、児童生徒等に対する通学を含めた学校生活その他の日常生活における安全に関する指導、職員の研修その他学校における安全に関する事項について計画を策定し、これを実施しなければならない。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	○	○	×	×	○
2	×	×	○	○	○
3	○	×	×	×	○
4	×	○	○	○	×
5	○	○	×	○	×

4 次の文章は、幼稚園教育要領解説（平成30年２月　文部科学省）「第２章第１節　ねらい及び内容の考え方と領域の編成」に関する記述の一部であるが、下線部に誤りの含まれているものがある。下線部（ア）～（エ）の記述について、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ねらいは、幼稚園教育において育みたい資質・能力を（ア）幼児の発達の側面から捉えたものであり、内容は、（イ）ねらいを達成するために指導する事項である。各領域は、これらを幼児の発達の側面から、心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示したものである。内容の取扱いは、幼児の発達を踏まえた指導を行うに当たって留意すべき事項である。

各領域に示すねらいは、（ウ）教師が意図した活動を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものであること、内容は、幼児が環境に関わって展開する（エ）具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならない。

	ア	イ	ウ	エ
1	×	○	×	○
2	○	×	×	○
3	×	○	○	×
4	○	○	×	×
5	○	×	○	○

5　次のア～エの各文のうち、幼稚園教育要領解説（平成30年２月　文部科学省）「第１章第１節　幼稚園教育の基本」に関する記述の内容として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　幼児期の教育においては、幼児が生活を通して身近なあらゆる環境からの刺激を受け止め、自分から興味をもって環境に主体的に関わりながら、様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わうという体験を重ねていくことが重視されなければならない。その際、幼児が環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになることが大切である。

イ　幼稚園教育が目指しているものは、幼児が一つ一つの活動を効率よく進め、自ら発達に必要なものを獲得しようとするようになることである。このような幼児の姿は、いろいろな活動を教師が計画した通りに行わせることで育てられていくものである。

ウ　環境を通して行う教育は、遊具や用具、素材を配置し、幼児の動くままに任せることである。しかし、環境に含まれている教育的価値を教師が取り出して直接幼児に教えたり、多くの知識を覚えさせたりすることは必要である。

エ　教師自身も環境の一部である。教師の動きや態度は幼児の安心感の源であり、幼児の視線は、教師の意図する、しないに関わらず、教師の姿に注がれていることが少なくない。物的環境の構成に取り組んでいる教師の姿や同じ仲間の姿があってこそ、その物的環境への幼児の興味や関心が生み出される。教師がモデルとして物的環境への関わり方を示すことで、充実した環境との関わりが生まれてくる。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	×	○	○
2	○	×	×	○
3	×	○	×	○
4	○	○	×	×
5	○	×	○	×

6 次のア～エの各文のうち、障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導（令和５年３月　文部科学省　厚生労働省　内閣府）に関する記述の内容として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　障害のある幼児などは、園だけでなく、家庭、場合によっては療育機関や医療機関などの関係機関などでも過ごしています。幼児は環境の影響を受けやすく、幼児が生活する環境によって異なる姿を示すことも少なくありません。そのため、関係者の間で障害のある幼児などの抱える困難さや必要な支援について、意見が異なることがあります。

イ　障害のある幼児などの抱える様々な困難さに気付き、必要な支援につなげるためには、日々の保育の中での気付きが重要です。しかし、当該幼児に現れた一つの姿を何かの障害に結び付けることには慎重でなければなりません。その姿は一過性のものであるか、何かをきっかけに見られるものであるか、物的・人的環境によって異なるのか、背景や環境要因も併せて検討することが大切です。

ウ　障害のある幼児などが、早期から関係機関の支援を受けることは、幼児の困難さに応じた支援や幼児の発達の上でとても重要な意味があります。しかし、発達の状況に不安を感じつつも、療育などの機関を利用することに不安や抵抗感を示す保護者もいます。その場合でも、幼児の困難さの解消にむけ、関係機関を紹介したり、医療機関等の受診を勧めたりして、早期につなげなくてはなりません。

エ　先生の必要な支援の下で、障害のある幼児などが園での遊びや生活を楽しみ、他の幼児との関わりを広げていけるようにすることが大切です。他の幼児との関わりを深め、遊びを展開していく際に大切なことがあります。それは、障害のある幼児などの困難さに応じた支援を、他の幼児との関わりや集団の生活の中で自然に取り入れていくことです。しかし、その支援によって、他の幼児が遊びを楽しめなくなることは避ける必要があります。年齢が高くなるにつれて、ちょっと難しく感じることへチャレンジしたり、少し複雑なルールの遊びを楽しんだりしたい幼児もいることでしょう。そうした幼児の思いも受け止めながら、障害のある幼児なども他の幼児も楽しめるような遊びの工夫が大切です。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	×	○	○
2	○	○	×	×
3	×	×	×	○
4	×	○	○	×
5	○	○	×	○

7 次のア～オの各文のうち、幼稚園教育要領解説（平成30年２月　文部科学省）「第３章　教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」に関する記述の内容として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　教育課程に基づく活動を考慮して展開するためには、教育課程に基づく活動を担当する教師と教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動を担当する者が、幼児の活動内容や幼児の心と体の健康状態についてお互いに引き継ぎをするなど、緊密な連携を図るようにすることが大切である。

イ　教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動は、幼稚園の教育活動ではないものの、それを担当する教師と教育課程に基づく活動を担当する教師が、日頃から合同で研修を行うなど緊密な連携を図るとともに、それぞれの担当者がそれぞれの教育活動を等しく担っているという共通理解をもち、教師間の協力体制を整備することは大切である。

ウ　教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動については、地域の実態や保護者の事情を考慮することが大切である。例えば、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動を毎日希望する場合又は週の何日かを希望する場合、あるいは、幼稚園の設定した終了時間よりも早く帰ることを希望する場合など様々なケースが考えられるが、できるだけそれぞれの要請に応えるよう弾力的な運用を図ることが必要である。弾力的な運用に当たり、子育ての支援を第一に考え、保護者の事情に合わせて活動時間を設定するなどの配慮が必要である。

エ　教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動は、家庭の教育力を損なうものであってはならない。そのため、保護者と幼児の様子等について情報交換などを行う中で、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の趣旨や家庭における教育の重要性を保護者に十分に理解してもらい、保護者が、幼稚園と共に幼児を育てるという意識が高まるようにすることが大切である。

オ　入園当初や進級当初においては、幼稚園生活に対して不安感や緊張感が大きい幼児もいるので、家庭生活との連続性を図りながら幼児一人一人の実情に合った居場所づくりを行うことが重要である。さらに、幼児の心や体の健康状態、季節などに配慮して、必要に応じて午睡の時間を設けたり、いつでも幼児が休めるようにくつろげる場を設けたりすることも大切である。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	○	×	×	○	○
2	○	○	×	○	×
3	×	×	○	○	×
4	×	○	○	×	○
5	○	×	×	○	×

8　次のア～オの各文のうち、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別な最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（令和３年１月26日　中央教育審議会）に関する記述の内容として、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。１～５から一つ選べ。

ア　国内外の学力調査では、家庭の社会経済的背景が児童生徒の学力に影響を与えている状況が確認されている。学力格差を是正するためには、社会経済的指標の低い層を幼少期から支援することが重要である。

イ　地域の幼児教育の中心として、幼児教育施設がその専門性やノウハウを生かし、保護者が子育ての喜びや生きがいを実感できるよう、幼児教育施設における親子登園や相談事業、一時預かり事業等の取組の充実を図ることなどにより、地域の未就園児を含めた子育ての支援の充実を図ることが必要である。

ウ　幼児教育施設で育まれてきた資質・能力を、小学校教育を通じて更に伸長していくためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼児教育施設と小学校の教職員が子供の成長を共有するなどの連携を図るとともに、小学校ではスタートカリキュラムも活用しながら幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化を図る必要がある。

エ　幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。また、学校教育の始まりとして幼稚園では、義務教育及びその後の教育の基礎を培うことを目的としている。

オ　幼児期は直接的・具体的な体験が重要であることから、教育活動においてＩＣＴを活用することは豊かな経験の妨げになるため必要ではない。しかし、幼児教育施設における業務のＩＣＴ化の推進等により、教職員の事務負担の軽減を図ることは重要である。

1	ア	イ	ウ	
2	イ	ウ	エ	
3	イ	エ	オ	
4	ア	イ	ウ	エ
5	ア	ウ	エ	オ

9 次のア～オの各文のうち、学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育（平成31年３月　文部科学省）に関する記述の内容として、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　幼児が自分で状況に応じ機敏に体を動かし、危険を回避するようになるためには、日常の生活の中で十分に体を動かし遊ぶことを通して、危険な場所、事物、状況などが分かり、そのときにとるべき最善の行動について体験を通して学び取っていくことが大切である。

イ　災害時の行動の仕方や不審者との遭遇など様々な犯罪から身を守る対処の仕方を身に付けるためには、幼児の発達の実情に応じて、基本的な対処の方法を確実に伝えるとともに、家庭、地域社会、関係機関とも連携して幼児の安全を図る必要がある。

ウ　交通安全の習慣を身に付けるために、日常の生活を通して、交通上のきまりに関心をもたせるとともに、家庭と連携を図りながら適切な指導を具体的な体験を通して繰り返し行うことが必要である。

エ　事故等が発生した場合の連絡の仕方・幼児の引渡しの方法については、年度当初に保護者と確認し、迎えが遅くなる幼児を把握しておくとともに、緊急時の連絡先を事前に確認しておく。保護者の勤務場所や兄弟姉妹の有無及び在籍校などの情報は、個人情報保護の観点から把握する必要はない。

オ　園外で活動する場合、活動場所、活動状況等が極めて多岐にわたるため、幼児の発達や活動場所などの特性に応じた安全管理が必要となる。活動場所やその経路に関する事前の実地調査、参加した幼児の人数や心身の健康状態の把握、活動の場所、時刻、時間等における無理や危険性の把握などについて教職員の共通理解を図り、状況に応じた慎重な安全管理を行うことが大切である。

1	ア	イ	ウ	
2	ア	エ	オ	
3	イ	ウ	オ	
4	ア	イ	ウ	オ
5	イ	ウ	エ	オ

10 次のア～エの各文のうち、指導と評価に生かす記録（令和３年10月　文部科学省）「第１章　専門性を高めるための記録の在り方」に関する記述の内容として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　遊びを通した総合的な指導を行うためには、幼児の遊ぶ姿を多面的に捉える必要があります。同じ遊びでも、幼児によって体験していることが異なるからです。そして、教材研究や環境の構成を行いながら、その遊びの特性を深く理解することや、それと幼児一人一人の課題やねらいとの関連性を把握し、発達に必要な体験となるように指導していくことも求められます。幼児の主体性を引き出しながら幼児同士の関係が豊かになっていくような指導を行うためにも、遊ぶ姿を具体的に捉えた記録を基にして一人一人の幼児にとっての遊びの意義を捉えることが必要です。

イ　幼稚園教育の基本は幼児一人一人の発達の特性に応じることです。幼児の心の状態や教師が設定した具体的なねらいが幼児の姿にどのように現れているのか、個別に捉えなければなりません。また、教師の目の前に現れる幼児の姿は、教師との関わりの下に現れている姿である以上、教師のもつ幼児観や教育観が反映されないよう、教師は幼児の姿のみを記録する必要があります。

ウ　記録には様々な種類があります。例えば、日々の保育を振り返る記録、幼児一人一人の成長記録、園内研究のテーマに合わせた実践記録、あるいは保護者との連携を図るための記録などです。文字による記録が主ですが、それ以外にも写真やビデオなどの映像記録やイラストなどで表した記録もあります。記録を保育に生かすためには、記録の目的を意識し、その目的に応じた方法を考えて使い分けたり、工夫したりすることが大切です。

エ　保育は、一過性の現象で再現することはできません。しかし「記録を取る」ことによって、その瞬間の出来事を意識化させることができます。記録を書くこと自体が省察です。その記録について話し合うことによって、何を話せば自分の保育に還元されるのかが明確になります。教師の協働する力を高め、風通しのよい話合いが行われる風土を園の中に醸成することは、何よりも幼児の成長や発達にとって重要です。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	×	○	×
2	○	×	○	○
3	×	×	○	○
4	×	○	×	○
5	○	○	○	×

11　次の文章は、幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開（令和３年２月　文部科学省）「第４章　指導計画の評価・改善のポイントと実際」に関する記述の一部である。遊びの中で幼児が何を楽しんでいたのか、どのように人やものと関わりながら遊んでいたのかについてＡ～Ｄの視点から振り返った記述の内容をア～エから選んだ場合、最も適するものの組合せはどれか。１～５から一つ選べ。

（ア）朝からリレーに参加する幼児が多い。（イ）チーム分けはジャンケンで行うが意識の薄い幼児は二度、ジャンケンしてしまったり、ジャンケンしないで並んでしまったりしている。

走ること、（ウ）だんだんと速くなってきていることが嬉しいようであり、エンドレスで走る。（エ）差が開きすぎたとき、「どっちが勝っているの？」という言葉が何度か聞かれ、友達と競い合って走ることが楽しくなってきている。（オ）興味をもった幼児が次々に参加し、好きなチームに入る。相手チームとの人数が全然違っていてもゲームが続いており、（カ）人数調整して勝敗を競おうとする動きは出てこない。（キ）順番を待ちながら、「今度は〇〇ちゃんと走れる」と喜ぶ姿が多く見られ、いろいろな友達と勝負したい気持ちが強い様子である。（ク）アンカーたすきは「やってみたい」という思いで走り終わった子が近くにいた友達に渡していき、誰がアンカーで走っているのかも分からなくなってしまった。

（ケ）Ｂ児は、ぐっと走り方が変わってきた。見ている幼児も、（コ）「Ｂちゃん、前より速くなった」、「手をいっぱい振ると速くなるんだよ」などと話している。（サ）Ｃ児は、自分がバトンをもらったときに前を走っていると「抜かした」と思っているらしく、誇らしげに報告してくれた。（シ）Ｃ児はその後、チームを変わり、他の友達に順番を譲ってＢ児の横に並んでいた。

（ス）Ｄ児とＥ児は、ゴールテープを持っているが、庭の中央を二人でぐるぐると回って、最後にはゴールテープは置き去りになっていた。

Ａ　チーム対抗の勝負への意識はどうか。

Ｂ　走る楽しさを味わうことができたか。

Ｃ　友達の動きを感じながら自分も動いているか。

Ｄ　リレーの雰囲気を感じてはいるが、競技としてうまく成り立たないのはなぜか。

ア　（イ）（エ）（オ）（カ）にあるように、幼児が楽しんでいることは運動会の競技としてのリレーそのものではなく、そこに向かう過程の、繰り返し自分が走るエンドレスリレーであることが分かります。

イ　（オ）のようにチーム分けの意識や必要性を感じていないものの、（イ）のように周囲の友達と同じような動きをしながら遊びに参加しようとしたり、（エ）（キ）（サ）（シ）のように相手を意識して走ろうとしたり、友達を感じて自分も動いていることが分かります。また、（コ）のように、友達のよさに気付き認める言葉なども出てきています。

ウ　（ク）のアンカーたすきや（ス）のゴールテープは、これまでに幼児が見て知っているリレーの雰囲気を再現しようとしている姿として捉えられます。しかし、アンカーの意味やゴールを決める必要性を幼児が感じて遊んでいるわけではないので、不要な環境になっているといえます。走る楽しさを味わいたいのに、アンカーたすきやゴールテープがあることがかえってそれを邪魔して、（ス）のように別の動きへ誘導されていることが分かります。

エ　（ア）（ウ）にあるように、体を動かして遊ぶこと、特に、走ることは、幼児の興味や関心と合っており、面白いと感じて自分から取り組む遊びとなっているようです。その結果、（ケ）のＢ児のように、走り方についての成長も見られます。

	A	B	C	D
1	ア	エ	イ	ウ
2	イ	ウ	ア	エ
3	ア	エ	ウ	イ
4	イ	ア	ウ	エ
5	ウ	エ	イ	ア

12 次のア～オの各文のうち、学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン（令和元年度改訂　日本学校保健会）に関する記述の内容として、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　児童生徒等のアレルギー疾患は食物アレルギー、アナフィラキシー、気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎、アレルギー性鼻炎などがありますが、病気のメカニズムとしては大きく異なります。そのため、いくつかのアレルギー疾患を一緒にもっている（合併）児童生徒等は多くはありません。

イ　アレルギー症状を認めたり、原因食物を食べてしまった等の場合には、発見者は、児童生徒等から目を離さないで、助けを呼び、人を集めます。集まった人にエピペン® とＡＥＤ等を持ってくるように指示をします。ここで学校内での役割分担を全教職員が知っていると速やかに行動できます。

ウ　アレルギー反応により、じんましんなどの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、ゼーゼー、呼吸困難などの呼吸器症状が、複数同時にかつ急激に出現した状態をアナフィラキシーと言います。その中でも、血圧が低下して意識の低下や脱力を来すような場合を、特にアナフィラキシーショックと呼び、直ちに対応しないと生命にかかわる重篤な状態であることを意味します。

エ　緊急性が高いアレルギー症状があると判断した場合の対応は、以下の３点です。
　・ただちにエピペン® を使用する。
　・救急車を要請する。
　・その場で安静にする。
　これらのことが同時進行で実施できるようにします。

オ　児童生徒等に起きるアナフィラキシーの原因のほとんどは食物ですが、それ以外に昆虫刺傷、医薬品、ラテックス（天然ゴム）などが問題となります。中にはまれに運動だけでも起きることがあります。

1　ア　イ　ウ
2　ア　イ　エ
3　イ　ウ　オ
4　ア　ウ　エ　オ
5　イ　ウ　エ　オ

13 次のア～オの各文のうち、幼稚園教育要領解説（平成30年２月 文部科学省）「第２章第２節　各領域に示す事項『健康』」に関する記述の内容として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　幼児が楽しみながら取り組む活動には、身近な環境に関わり、試したり、工夫したりしながら作って遊ぶこと、自分が思ったことや考えたことを表現して遊ぶこと、また、戸外で友達と体を十分に動かして遊ぶことなど様々なものがある。様々な遊びの面白さに触れ、いろいろな経験を通して、幼児自らが積極的、主体的に選択して遊ぶようにすることが大切である。

イ　家庭での生活の仕方が幼児の生活のリズムに大きく影響することから、一人一人の生活のリズムを把握し、それらに応じながら、遊ぶ時間や食事の時間などに配慮することも必要である。３歳児の場合は、幼児一人一人の経験に差がないことから、生活のリズムに配慮する必要はないが、５歳児の場合は、一人一人のもつ生活のリズムが異なることに配慮し、きめ細かな指導が必要である。

ウ　幼児は、一度身に付けたと思われる基本的な生活行動がくずれることがある。これらは、多くの場合、必要な行動であることを幼児が十分理解できていないからである。このようなときには、その都度、教師から一つ一つの生活行動の意味を的確に伝えることが大切であり、このような過程を経ていくことで、幼児は着実に基本的な生活行動を身に付けていく。

エ　入園当初において、自分に温かく接してくれる教師と一緒に行動することによって、幼児は、汚れた手を洗ったり、汗の始末をしたりするようになり、その気持ちよさを感じ取っていく。さらに、健康診断や身体測定などの機会を通して、自分の成長を喜びながら自分の体に関心をもつように働き掛けることにより、病気の予防に必要な活動に気付き、これらの活動を進んで行うようになっていく。

オ　幼児期は身体諸機能が著しく発達する時期であるが、幼児は自発的にそのとき発達していく機能を使って活動する傾向があるといわれている。そして、その機能を十分に使うことによって更に発達が促されていく。したがって、幼児の興味や能力などに応じた遊びの中で、自分から十分に体を動かす心地よさを味わうことができるようにすることが大切である。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	○	×	○	×	○
2	○	×	×	○	○
3	×	○	×	×	○
4	×	○	○	○	×
5	○	×	×	○	×

14 次の各文は、幼稚園教育要領解説（平成30年２月　文部科学省）「第２章第２節　各領域に示す事項『言葉』」に関する記述の一部である。Ａ～Ｄの記述とア～エの各文の内容の組合せとして最も適するものはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

Ａ　その幼児なりの動きを交えた表現を教師が受け止め、積極的に理解することによって、相手に自分の思いを分かってもらいたいという気持ちが芽生えていく。そして、教師が的確にその思いを言葉で表現していくことによって、幼児が表現しようとする内容をどう表現すればよいかを理解させていくことも大切になる。教師や友達の言葉による表現を聞きながら、幼児は自分の気持ちや考えを言葉で人に伝える表現の仕方を学んでいくのである。

Ｂ　幼稚園での友達との遊びの中では、役割や順番を決めたり、物の貸し借りなどをしたりする場面がある。このようなときには、「順番」や「交替」というような言葉や「貸して」、「いいよ」という表現もよく用いられるが、このような言葉や表現が分からないと友達との遊びを楽しく展開できないこともある。

　このように、集団で遊びや生活を進めていく上で必要な言葉は多くあるが、このような言葉の意味を理解していく上で、教師は、実際に行動する中でその意味に幼児自身が気付くように援助していくことが大切である。

Ｃ　心に蓄積された具体的なイメージは、それに関連する情景やものなどに出会ったとき、刺激を受け、生き生きと想起され、よみがえってくることがある。特に、３歳児では、例えば、「まぶしいこと」を「目がチクチクする」と感じたことをそのままに表現することがある。このような感覚に基づく表現を通して幼児がそれぞれの言葉にもつイメージが豊かになり、言葉の感覚は磨かれていく。したがって、教師は、このような幼児らしい表現を受け止めていくことが大切である。

Ｄ　自分では考えや要求などを伝えたつもりでも、それを相手に分かるように言わずに、意味や内容が正しく伝わらないことから、相手ともめることもある。同じ話でも相手に応じて異なる話し方が求められることがある。例えば、教師に話すときと年下の者に話すときでは、同じ話でも相手に応じてその言葉の使い方や表現の仕方を変えた方がよい場合もある。幼児は、周囲の人々の会話の仕方や話し方を聞きながら、自分も相手により分かるように話し方を変えていくことを学んでいくのである。

ア　したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。

イ　人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。

ウ　生活の中で必要な言葉が分かり、使う。

エ　いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。

	A	B	C	D
1	ア	イ	エ	ウ
2	ア	ウ	エ	イ
3	ア	エ	ウ	イ
4	イ	ウ	エ	ア
5	イ	エ	ア	ウ

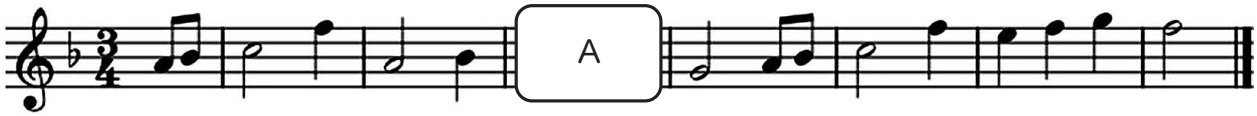
15 次の［α群］に示すア～ウの野菜の一般的な栽培方法と［β群］に示すA～Fの野菜の組合せとして最も適するものはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

［α群］
ア　主に種をまいて育てるもの
イ　主に種芋を植えて育てるもの
ウ　主に苗を植えて育てるもの

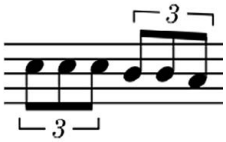
［β群］
A　ニンジン
B　ダイコン
C　ソラマメ
D　ジャガイモ
E　サトイモ
F　サツマイモ

	ア	イ	ウ
1	A	F	B
2	B	D	E
3	C	E	F
4	C	F	A
5	E	D	F

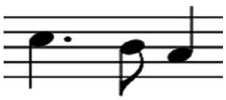
16　次に示す楽譜の（　A　）に当てはめることのできる小節について、ア～エのうち、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。



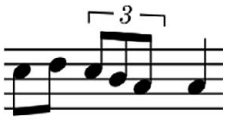
ア



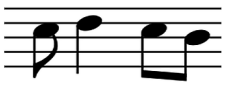
イ



ウ



エ



	ア	イ	ウ	エ
1	○	○	○	×
2	×	×	×	○
3	○	○	×	×
4	×	×	○	○
5	×	○	○	×

17　次のア～オの各文のうち、造形活動に用いる材料や用具に関する内容として、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　絵の具遊びで使用した筆は放置しておくと、筆の穂先が乱れたり、絵の具が固まったりしてしまいます。使った筆は、水をはったバケツに漬けておくと絵の具が固まらず、片付けの時、時間を短縮できます。筆は、絵の具が乾く前によく洗い、筆の穂先を整えるために、濡らした雑巾にくるんで片付けます。

イ　クレヨンは、パスに比べて、ロウ分が少なく、油分が多いため、パスよりもやわらかめです。そのため、面塗りよりも線描きに適しており、しっかりとした線を描くことができます。

ウ　新聞紙は、可塑性が高く、破ったり、折ったり、丸めたりと自由に操作することができます。また、新聞紙には、目があり、裂けやすい向きがあります。

エ　土粘土は、水を加えたり、水分をとったりすることにより、自由に固さを変えることができます。乾燥すると固くなりますが、再生することは可能です。再生には手間がかかるため、余った粘土や使い終わった粘土は、乾燥しないように保管します。乾燥し始めていたら、表面に水をつける、濡れタオルにくるむなどして、粘土に水を含ませます。

オ　はさみで直線を切るときは、紙が動かないように持ち、体の正面で切ります。曲線を切るときは、はさみを回すのではなく、紙を回しながら、刃先を使って切ります。人にはさみを渡す時は、相手に刃を向けず、刃先を自分が持ち、柄の方を向けるようにします。

1	ア	イ	
2	イ	エ	
3	ウ	エ	
4	ア	ウ	オ
5	ウ	エ	オ

18　次のア～ウの各文は、幼児期運動指針（平成24年３月　文部科学省　幼児期運動指針策定委員会）「４　幼児期の運動の在り方」に関する記述の一部である。運動の発達の特性として、幼児期の初期（３歳から４歳ごろ）から順に並べた場合、最も適するのはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　友達と一緒に運動することに楽しさを見いだし、また環境との関わり方や遊び方を工夫しながら、多くの動きを経験するようになる。特に全身のバランスをとる能力が発達し、身近にある用具を使って操作するような動きも上手になっていく。

イ　幼稚園、保育所等の生活や家庭での環境に適応しながら、未熟ながらも基本的な動きが一通りできるようになる。次第に自分の体の動きをコントロールしながら、身体感覚を高め、より巧みな動きを獲得することができるようになっていく。

ウ　友達と共通のイメージをもって遊んだり、目的に向かって集団で行動したり、友達と力を合わせたり役割を分担したりして遊ぶようになり、満足するまで取り組むようになる。それまでの知識や経験を生かし、工夫をして、遊びを発展させる姿も見られるようになる。

1　ア　→　イ　→　ウ
2　ア　→　ウ　→　イ
3　イ　→　ア　→　ウ
4　イ　→　ウ　→　ア
5　ウ　→　イ　→　ア

19 次のア～エの各文のうち、環境教育指導資料［幼稚園・小学校編］（平成26年10月　国立教育政策研究所教育課程研究センター）「第１章　今求められる環境教育」及び「第２章　幼稚園における環境教育」に関する記述の内容として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　環境教育においては、幼児が身近な環境に対して体験を通して働き掛けることを基盤とする。このことは、幼稚園特有の基盤として、常に大切に考えなければならないことである。その上で、各校種の独自のねらいと校種間の情報の共有や学びの連続性に配慮していくことが重要である。

イ　幼児期の子供は、環境について言葉で理解したり表現したりすることはうまくできないし、そのことをうまくさせようとして一方的に働き掛けても、あまり意味がない。むしろ、自然の不思議さや美しさ、環境の面白さ等について体を通して感じたり体験したりすることが重要であり、こうした自然を含めた環境についての体を通しての理解が、将来の人間の生活における自然のもつ意味や、持続可能な環境の保全について学ぶ環境教育の基盤となっていく。

ウ　「様々な環境とのかかわりの中で、感動したことを伝え合う」「先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう」「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする」「自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ」「身近なものを大切にする」などの人やものとの関わりを深め、共に生活をすることを楽しむ経験は、将来の「合意を形成しようとする態度」「自ら進んで環境の保護・保全に寄与しようとする態度」につながっていく。

エ　「自然に親しみ、その大きさ、美しさ、不思議さなどを感じる」「身近な自然や自然物に触れて、いろいろな遊びを楽しむ」など、自然と関わり遊びを楽しむ経験や、「身近な動植物に親しみをもち、いたわったり世話をしたりする」など、動植物と関わる経験は、幼児期に欠かせない。こうした自然に対する感性を豊かにしていく経験は、将来の「環境を感受する能力」「環境に興味・関心をもち、自ら関わろうとする態度」につながっていく。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	×	○	×	○
4	×	×	○	×
5	×	○	○	○

20　次のア～エの各文のうち、外国人幼児等の受入れにおける配慮について（令和２年３月　文部科学省）に関する記述の内容として、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　同じ言語を使う外国人幼児等が複数名在籍すると、同じ言語を使う外国人幼児等だけで活動することが多くなり、日本語に親しむ機会が少なくなる場合があります。日本人幼児と外国人幼児等の触れ合いを通して、自分とは異なる文化、生活習慣、言語などをもつ人と一緒に活動する楽しさをそれぞれの幼児が味わえるようにするとともに、外国人幼児等が日本語などに親しむことができるように配慮することが大切です。

イ　教師が、習慣や言葉の違う外国人幼児等を、どのような視点で見つめ、対応するかによって、その幼児の気持ちや行動は変容していきます。生活習慣や宗教に関わる行動などについて必ずしも日本の習慣に合わせさせるのではなく、外国人幼児等の考え方や文化を受け止め、学級の他の幼児にも文化の違いとして受け止められるような指導が求められます。

ウ　登降園時などにおける保護者との日常的な会話では、文化によって意味が異なる場合があることから、身振り手振りなどのジェスチャーで言葉を補う方法は有効とは言えません。また、英語の単語を入れて話したり、漢字を書いて見せたりなど、外国語や外来語を入れて話すという方法もありますが、元々の外国語と意味が異なっているものもあるので、注意しましょう。

エ　幼い時期に来日した子供は、母語を忘れる傾向があり、成長するにつれ、保護者との関わりが難しくなる場合もあると言われています。そのため、幼稚園では日本語、家庭では母語といった対応が考えられます。しかし、幼稚園では日本語を話さなければならないと外国人幼児等が思い込むことで、自己発揮できなくなったり、幼稚園生活に不安を感じたりすることも考えられます。

1	ア	イ	
2	ア	ウ	
3	ア	エ	
4	ア	イ	エ
5	イ	ウ	エ